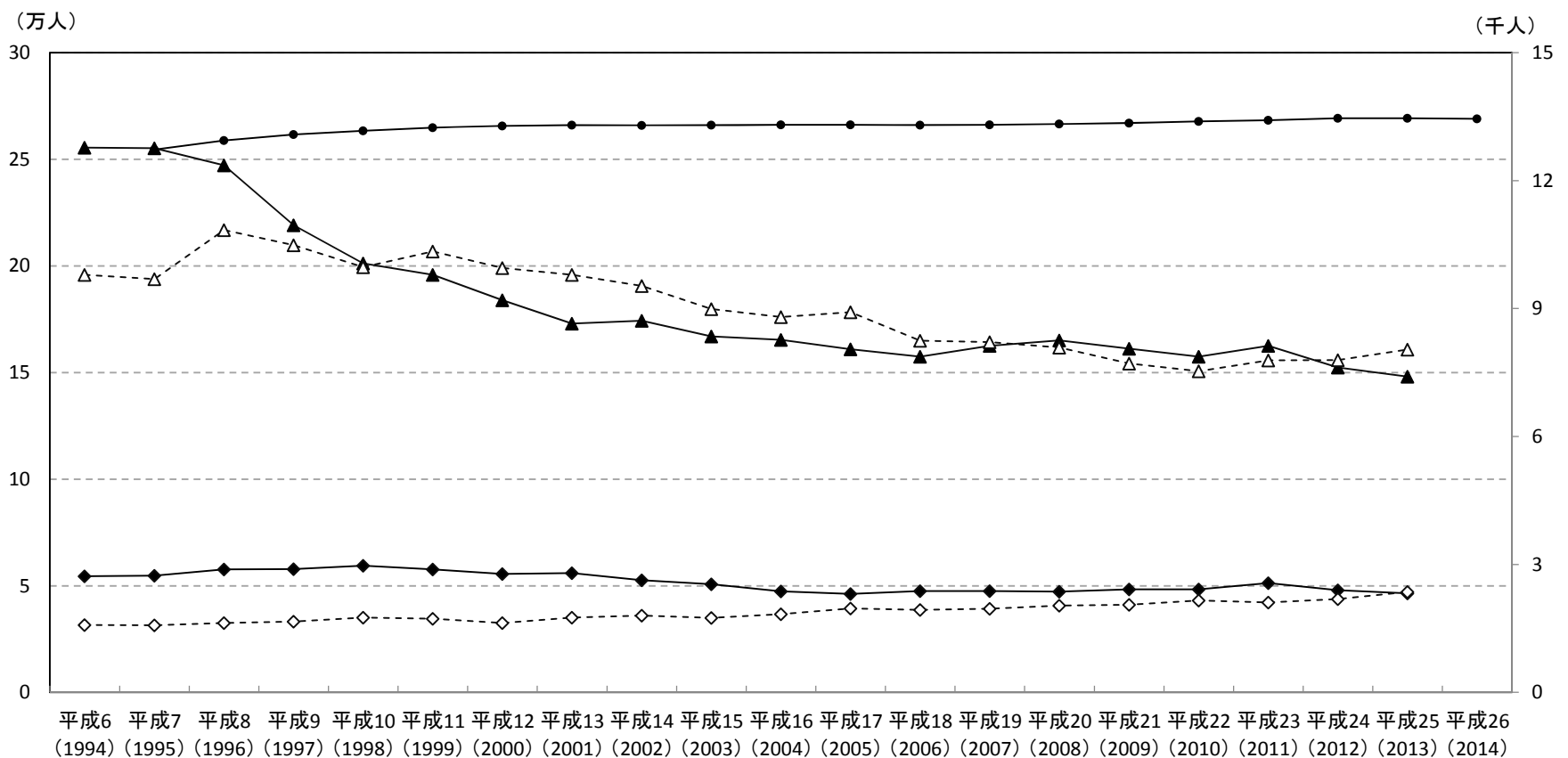


資料2

# 加古川市の人口について

# 人口動態

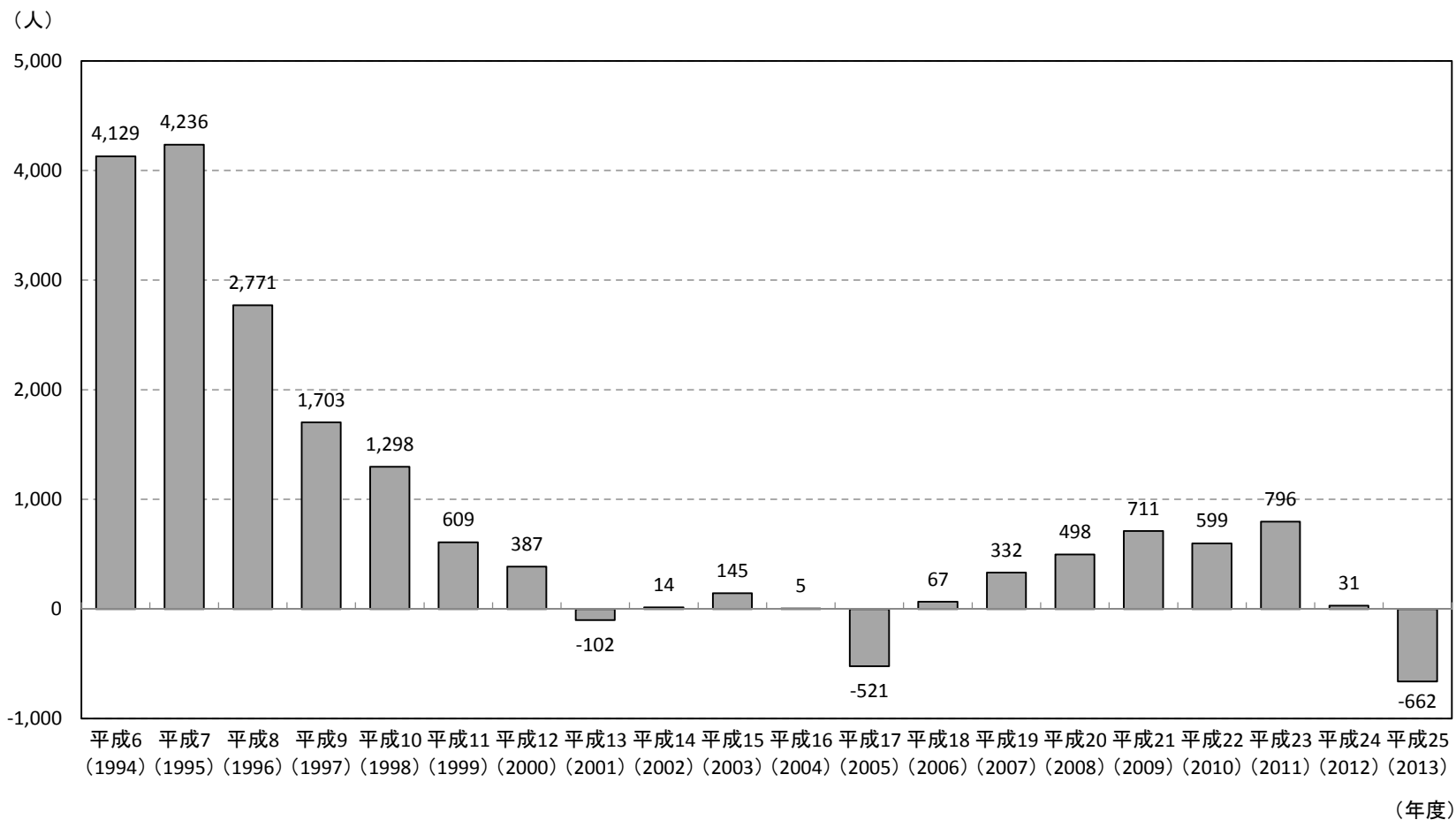


平成6 平成7 平成8 平成9 平成10 平成11 平成12 平成13 平成14 平成15 平成16 平成17 平成18 平成19 平成20 平成21 平成22 平成23 平成24 平成25 平成26  
 (1994) (1995) (1996) (1997) (1998) (1999) (2000) (2001) (2002) (2003) (2004) (2005) (2006) (2007) (2008) (2009) (2010) (2011) (2012) (2013) (2014)

- 住民基本台帳人口
- ◆ 出生者数(右軸)
- ◇ 死亡者数(右軸)
- ▲ 転入者数(右軸)
- △ 転出者数(右軸)

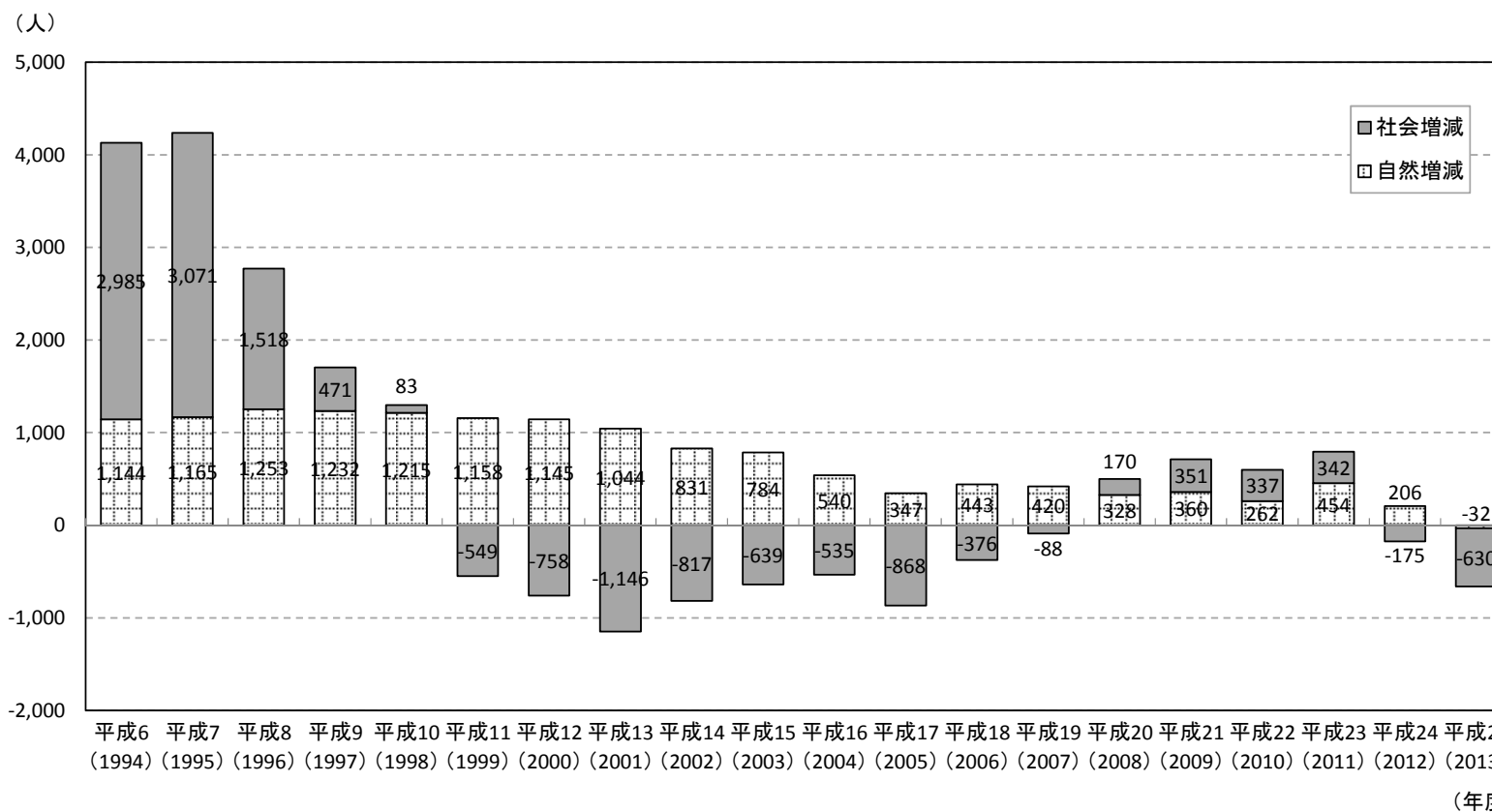
(注1)住民基本台帳人口は各年3月31日時点の値、平成26年のみ1月1日時点の値  
 (注2)住民基本台帳人口は平成7年から平成26年の推移  
 (注3)転入者数、転出者数、出生者数、死亡者数は平成6年度から平成25年度の推移

# 人口増減



- ◆ 平成12(2000)年頃までは人口増で推移。
- ◆ 平成13(2001)年以降は横ばい傾向。

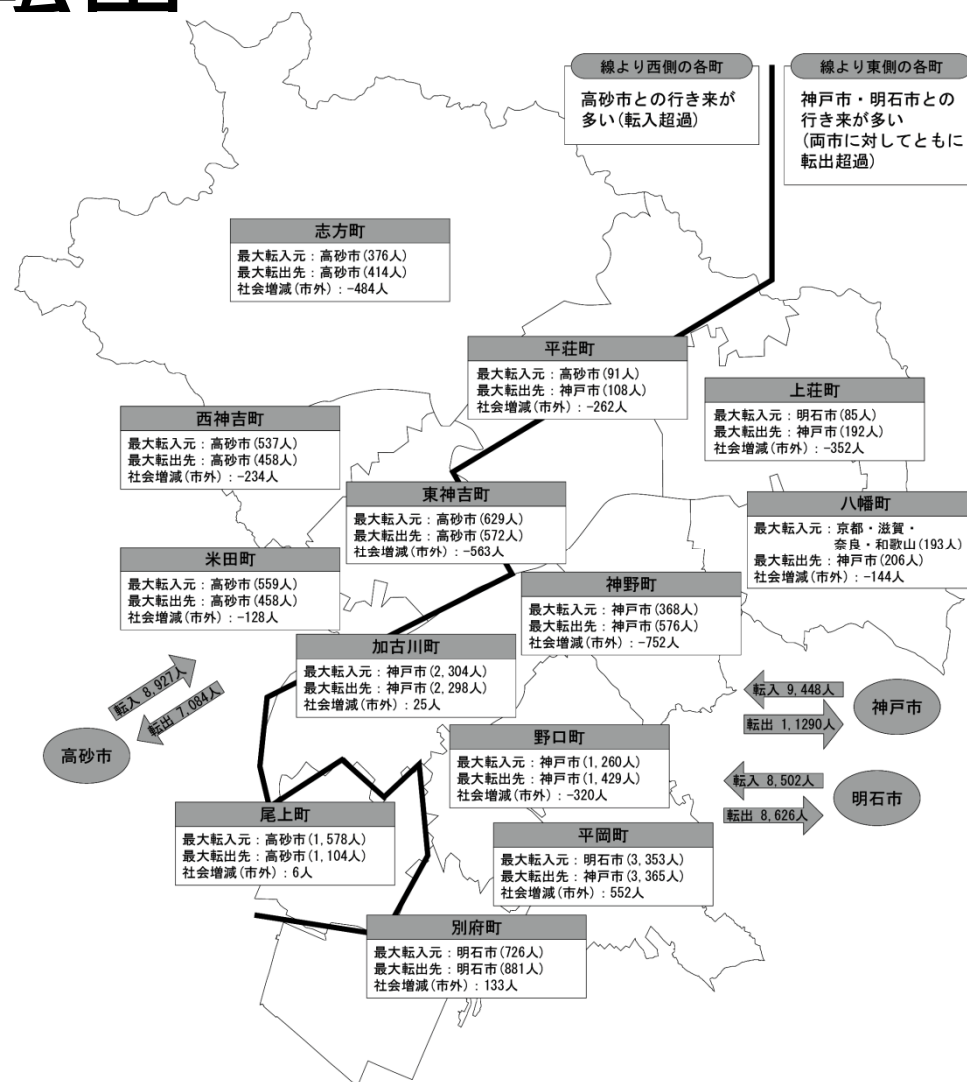
# 人口増減の要因



- ◆ 社会増減について、平成11(1999)年度から平成19(2007)年度にかけては社会減。平成20(2008)年度から平成23(2011)年度にかけては社会増。平成24(2012)年度と平成25(2013)年度は、再び社会減。転入、転出とも総数は減少している。
- ◆ 自然増減については、自然増が続いてきたが、平成25(2013)年度に死亡数が出生数を上回る。出生数が減少傾向にある一方で、死亡数は増加傾向。

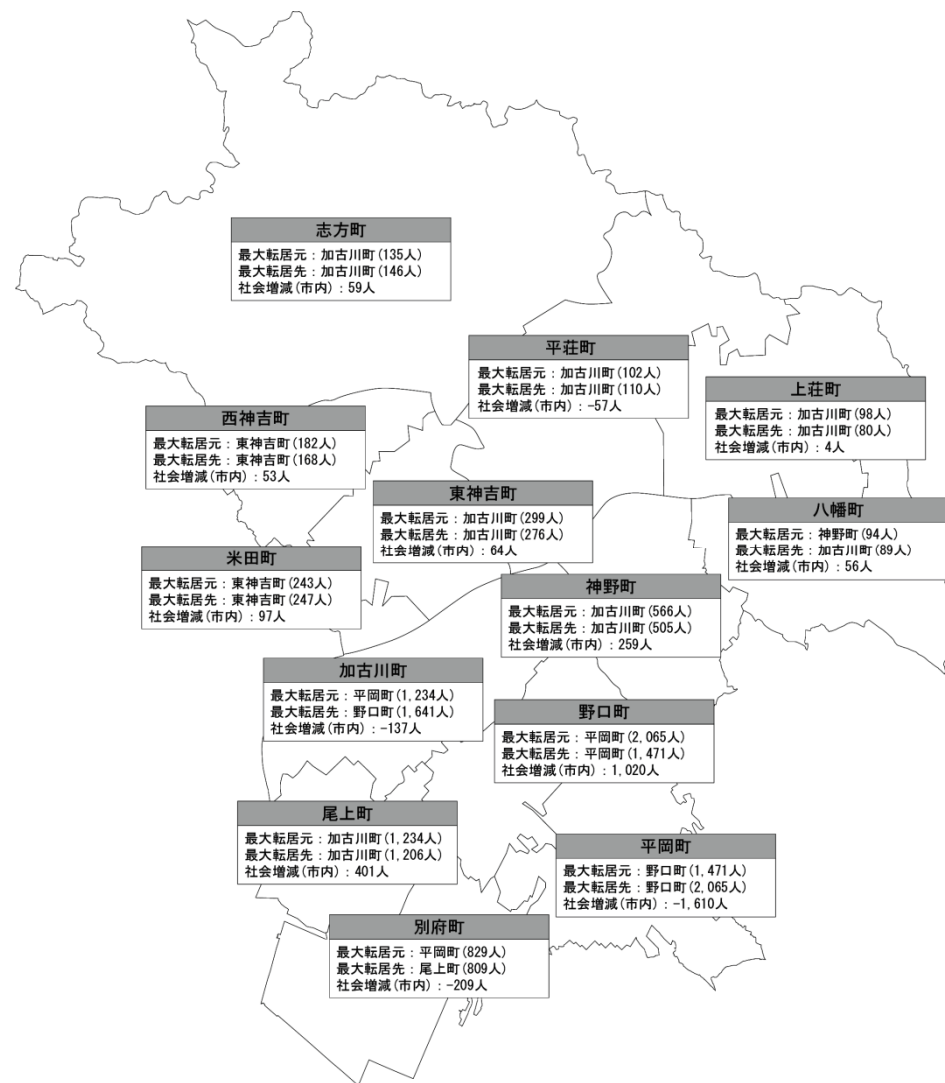
# 市外との転入転出

- ◆ 市外との転入・転出の状況について、平成16(2004)年から平成26(2014)年までの異動データを集計。
- ◆ 神戸市、明石市、高砂市など近隣の自治体との転出入が多く、高砂市との転出入の多さは際立っている。
- ◆ 高砂市に対しては転入超過となり、神戸市・明石市に対しては転出超過となっている。
- ◆ 市内各町別にみると、尾上町、米田町、東神吉町、西神吉町、志方町など市西部の各町は隣接する高砂市との転出入が多い。
- ◆ 平岡町、野口町、別府町、神野町など市東部の各町は明石市や神戸市との転出入が多くなっている。
- ◆ 市内の各町でも、それぞれ地理的に近い市との転出入が多い。



# 市内での転居

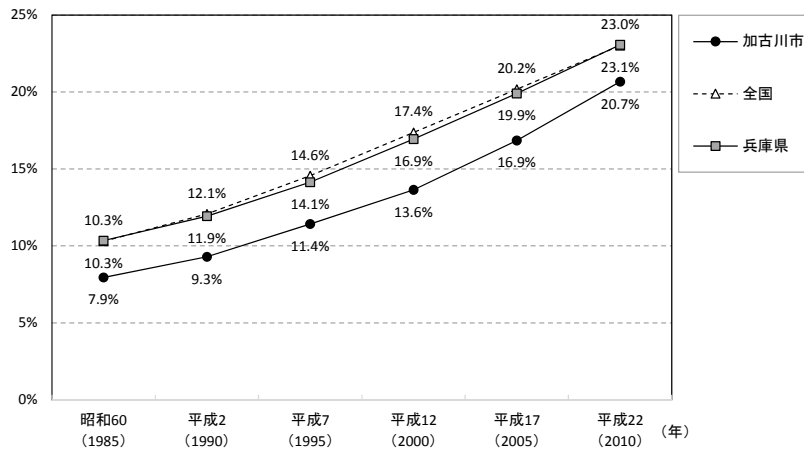
- ◆ 市内での転居については同じ町内で異動する人が多い。
- ◆ 市内の他の町への異動については、12町のうち7町で加古川町が最大の転居先となっている。
- ◆ その他の町は平岡町から野口町、別府町から尾上町、米田町から東神吉町など、隣接する町への異動が多い。



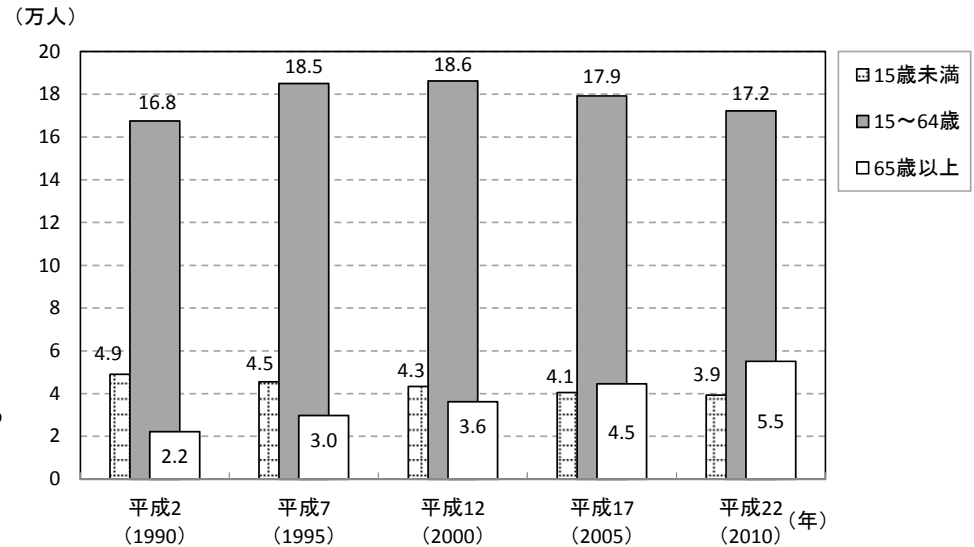
# 人口構造

- ◆ 65歳以上の人の比率は平成2(1990)年には9.3%であったのが、平成22(2010)年には20.7%まで上昇しており、市内でも少子高齢化が進行している。
- ◆ 平成17(2005)年にはじめて65歳以上の人口が15歳未満の年少人口を上回った。
- ◆ ただし、全国や兵庫県と比べると、低い水準で推移している。

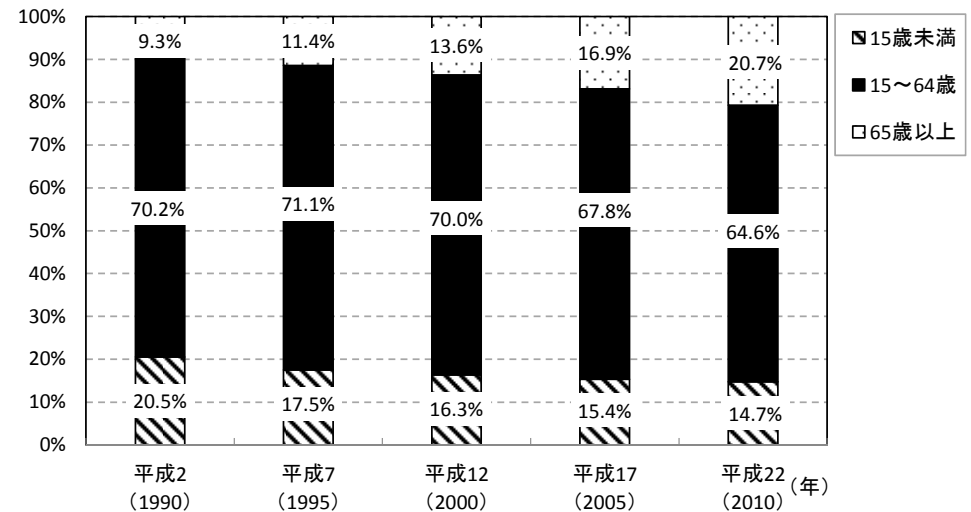
【高齢化の比率】



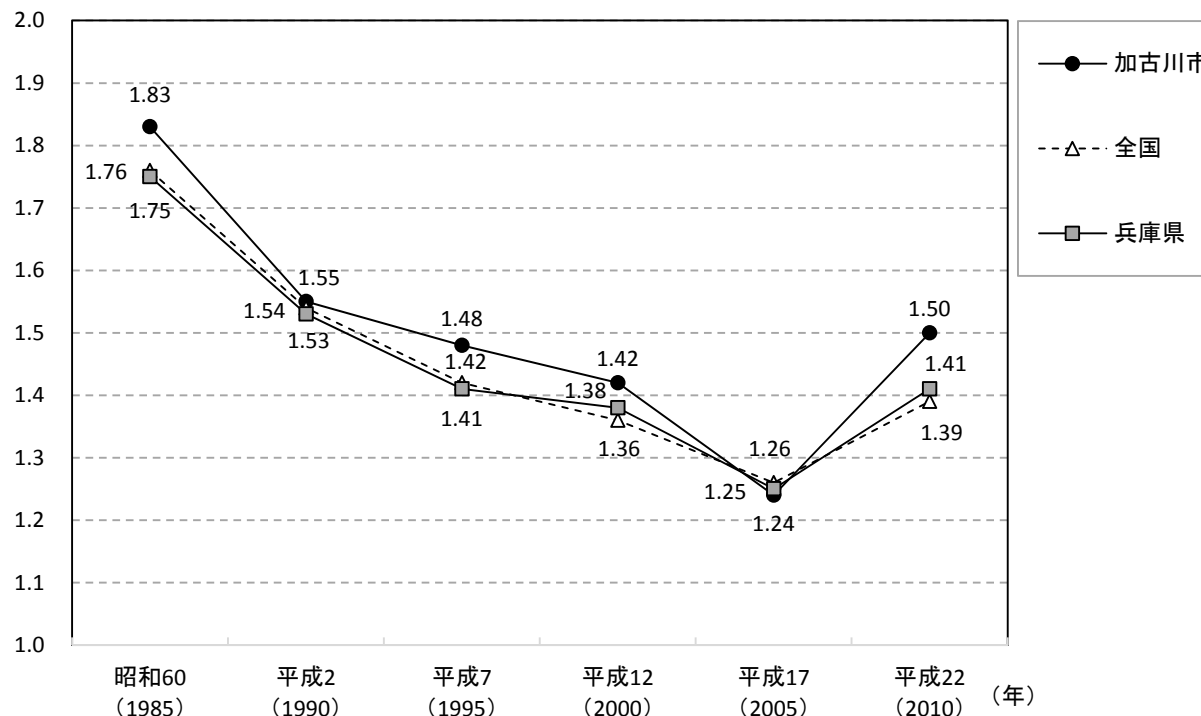
【年齢3区分別】



【年齢5歳階級別】



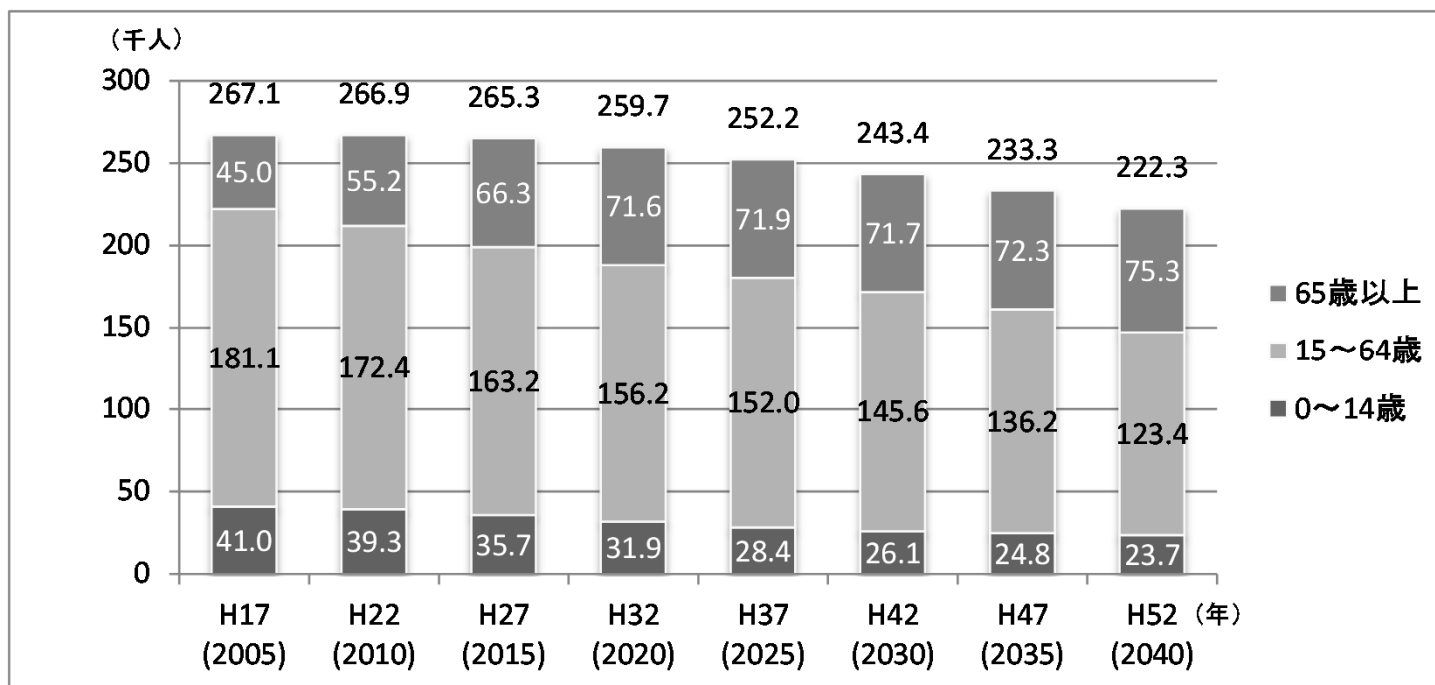
# 合計特殊出生率



- ◆ 合計特殊出生率は、昭和60(1985)年は1.83であったが、平成17(2005)年には1.24まで減少し、平成22(2010)年には1.50まで回復している。
- ◆ 兵庫県や全国の数と比べ比較的高く推移してきたが、平成17(2005)年には県や全国とほぼ同じ水準となり、平成22(2010)年には再び県や全国よりも高い水準となっている。

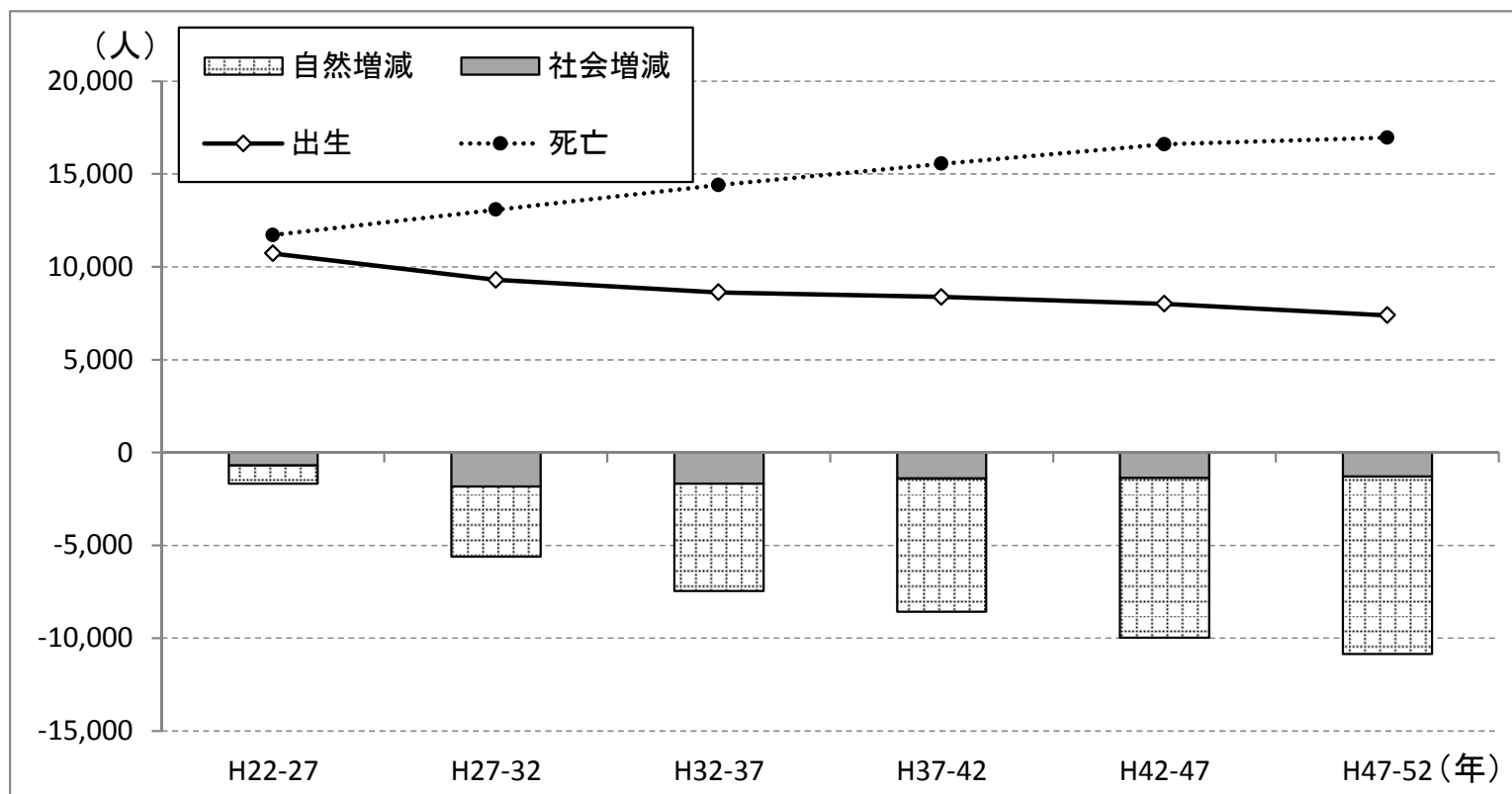


# 加古川市の人口推計結果



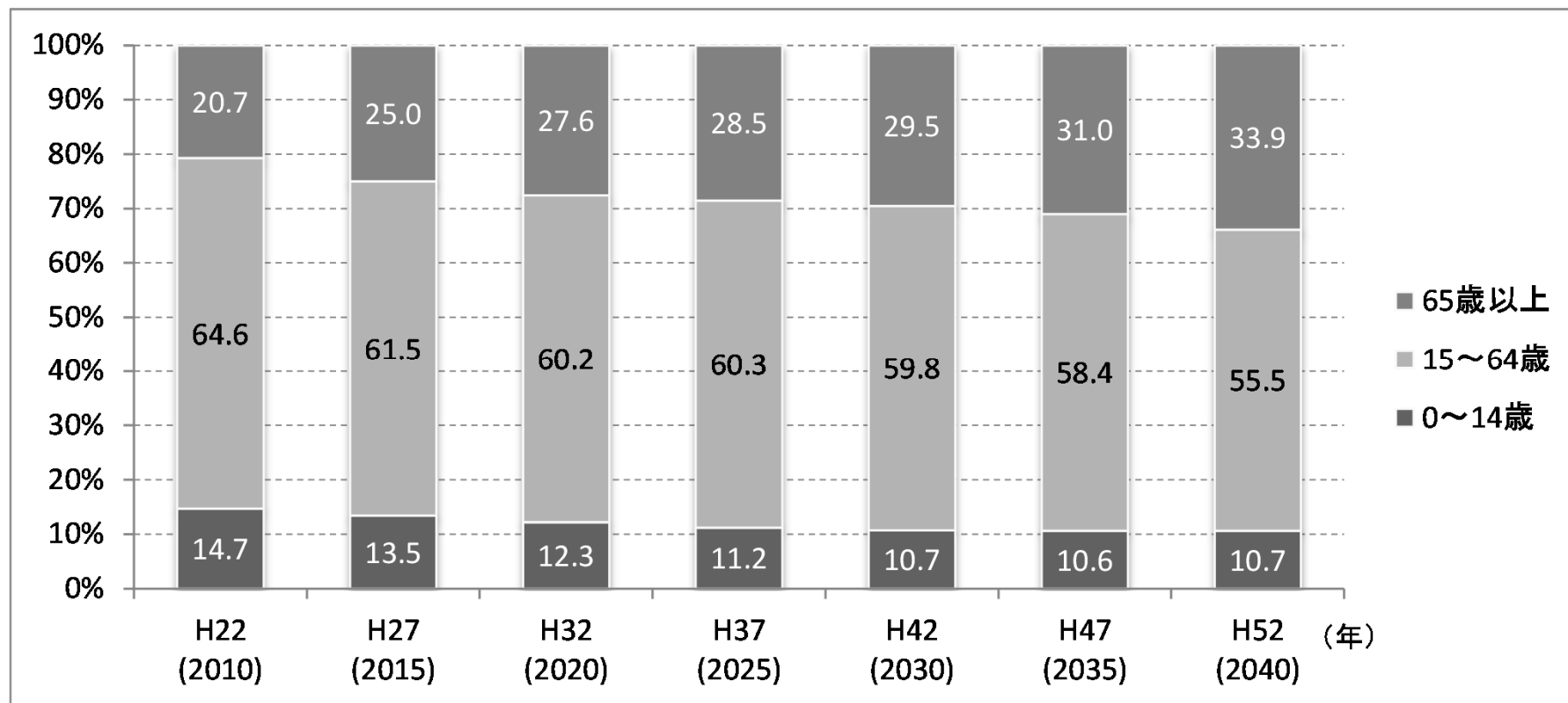
- ◆ 総人口は、平成32(2020)年には26.0万人、平成52(2040)年には22.2万人になると見込まれる。
- ◆ 65歳以上の高齢者の人口は、平成22(2010)年の5.5万人から平成52(2040)年には約1.4倍の7.5万人になると見込まれる。
- ◆ 生産年齢人口と呼ばれる15歳から64歳の人口は、平成22(2010)年の17.2万人から平成52(2040)年には12.3万人にまで減少すると見込まれ、構成比は56%になる。

# 自然・社会増減の推移



- ◆ 自然増減については、平成22(2010)年から平成27(2015)年にかけて自然減少となり、その幅は拡大していくと見込まれる。
- ◆ 社会増減については、平成22(2010)年以降、転出超過で推移している。10歳代後半から20歳代前半の若年層が転出超過で、30歳代の女性を除く20歳代後半から40歳代前半の若年層が転入超過となっている。

# 年齢3区分別人口



◆ 65歳以上の比率は、平成22(2010)年20.7%から平成52(2040)年では33.9%になる。